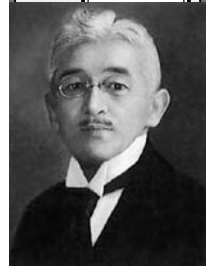


明治家 実業列伝 ⑭

藤崎 三郎助

仙台市博物館 市史編さん室長 菅野正道



数少ない老舗

全国にも名が知られる仙台初売。以前は「買初め」などとも言ったものですが、とにかく江戸時代から続く伝統ある行事として、仙台の正月にはなくてはならない存在です。

しかし、何百年も続いている伝統でも、その主役である商店は時代の波にもまれ、つぎつぎと移り変わっていきます。最近「百年企業」という言葉が使われていますが、まことに会社を一〇〇年以上にわたって繁栄させることの難しさが、この語に表れています。

では、仙台で一〇〇年の伝統を持つ商店はというと、平成二十四年の初売初日に約八万人の来店者を集めた、藤崎百貨店がその代表格であることは間違いありません。

藤崎は、文政二（一八一九）年に仙台城下大町二丁目で開業し、太物（綿織物）や呉服を商った得可主（寿）屋が始まりです。店主の名は藤崎三郎助。以後、代々の当主はこの「三郎助」を襲名することになります。

得可主屋は順調に業績を伸ばし、早くも二代目三郎助の時には仙台城下屈指の商人となり、幕末には仙台藩に資金を融通し、苗字帯刀も許されるほどの成長振りでした。

時代の変動を乗り越える

明治維新は社会のさまざまな場面に大きな変革をもたらしました。仙台城下でも、この時代の波を乗り越えることが出来ずに衰退す

る商家が少なくありませんでした。

そうした中で「藤崎三郎助商店」と呼ばれるようになった得可主屋は、明治一〇年代でも仙台屈指の商家としての地位と評判を守り続けました。ただ守り続けるだけでなく、新たな取り組みに挑戦する姿勢が、藤崎を新たな発展に導いたと言えるかもしれません。

その取り組みの一つが「正札」販売です。今は商品に正札（値札）が付くのは当たり前ですが、当時としては画期的なことでした。

明治三十（一八九七）年、藤崎は新興の繁華街として成長著しい東一番丁と大町の角の現在地に出店しました。この前後、電話の導入、今も使われている店のマークの制定、社員慰安組織の設立など、藤崎は次々に新しい取り組みを実現します。その最大のものは、個人商店から「会社」への転換を狙った「店則」の制定でした。店のあり方から始まり、就業規則や会計、福利厚生などを規定し、顧客サービスの重要性を示したこの「店則」のもと、藤崎は明治四十五年に株式会社となり、さらに大正八（一九一九）年に洋風の新館を建てて百貨店へと発展していったのです。

青年実業家・四代目三郎助

このような明治期の藤崎の発展を支えたのが四代目三郎助でした。慶応四（明治元（一八六八）年に生まれた四代目三郎助は、三代目が早くに亡くなったこともあり、わずか十一歳で店を継ぐこととなります。明治時代

の変革期に幼少の当主という、実は大きな危機に藤崎は直面したのです。

この厳しい場面を乗り越えることが出来たのは、先々代から藤崎に仕えた大番頭（おおばんとう）の菱沼清蔵（ひしぬま）の力によるものでした。大店を維持するだけでなく、正札販売などの新しい取り組みの幾つかは彼の献策によるものでした。

菱沼清蔵が店を守る中で、アメリカ人家庭教師の指導を受けた三郎助は、新しい時代の実業家として成長しました。明治三十年前後の藤崎の発展は、まさに青年実業家の新感覚による経営刷新だったと言えるでしょう。

さらに三郎助は大きな飛躍に挑戦します。海外への進出です。明治三十三年に七ヶ月にわたる欧米視察を行った三郎助は、帰国後、早速フランスへの絹織物輸出を始め、その後インド、ブラジル、アルゼンチンとの貿易を開始し、なかでもブラジル貿易のために設立された藤崎商會は貿易にとどまらず、領事館的な役割も果たしました。また台湾で砂糖事業、満州（中国東北部）での石炭採掘などにも取り組み込んだのです。

三郎助の進取の気性は、経営だけでなく仙台で初めて家用自動車を導入するといった点にも現れていました。三郎助は大正十五（一九二六）年に亡くなりますが、まさに明治大正という新しい時代の坂道を駆け上り、老舗を百貨店へと導いたといえるでしょう。



明治38(1905)年2月に行われた藤崎の大売出し。開店以来最大の賑わいで、客止めが3回にも及んだという(写真提供:株式会社藤崎)。

仙台市史

好評発売中

特別編4 市民生活

明治以降の人々の暮らしを、豊富なカラー図版とともに紹介

◆B5判 620頁 オールカラー ◆定価6000円(本体5714円)

お求め先 県内主要書店・仙台市博物館・鎌宮城教科書供給所 TEL.022-235-7181 FAX.022-235-7183
お問い合わせ先 仙台市博物館市史編さん室 〒980-0862 仙台市青葉区川内 26 番地 TEL.022-225-3074



昭和7年に完成した藤崎百貨店の3階建ての建物(写真右)は、仙台空襲をくぐりぬげ、戦後も仙台を代表するデパートとして人々に親しまれた(昭和20年9月20日撮影 仙台市博物館所蔵)